

P1-11-13 妊婦葉酸摂取に関する動向調査～妊娠女性へのアンケート調査から～

横浜市立大¹, 横浜市立大国際先天異常モニタリングセンター², 日本産婦人科医学会日本産婦人科医学会³
 浜之上はるか¹, 住吉好雄², 高橋恒男¹, 山中美智子², 川端正清³, 木下勝之³, 寺尾俊彦³, 平原史樹¹

【目的】葉酸には神経管閉鎖障害の発生低減効果がある。本邦でも2000年の妊娠計画女性への葉酸摂取勧告以来、二分脊椎の発生頻度には若干の低減化傾向が見られてきている。勧告後10年ほど経過した今日、妊娠女性の葉酸摂取に関する意識の変化と普及への問題点を検討する事とした。【方法】2009年から2010年にかけて神奈川県下の9つの地域基幹・総合病院に通院した妊娠女性2287名に対して葉酸摂取状況に関する聞き取り調査を行った。対象全体における葉酸摂取勧告の認知度、妊娠前摂取率、妊娠後摂取率を算出した上で、対象を病院特性および初産産に階層化して詳細に検討した。【成績】平均年齢31.9歳、葉酸摂取勧告コメントを少しでも知っていた割合(以下、認知率)は64.5%であった。サプリメントによって意識的に摂取した割合(以下、摂取率)は妊娠前15.7%、妊娠後48.9%であった。地域拠点病院6病院(以下、地域型)とハイリスクを扱う3病院(以下、ハイリスク型)に階層化したところ、認知率は、地域型で63.0%であったが、ハイリスク型で71.6%に及び妊娠前摂取率も20.1%と高値であった。初産と経産に階層化したところ、認知度は初産で54.9%、経産で74.5%と経産婦に高い傾向があった。しかし、妊娠前摂取率は初産18.6%、経産12.7%、妊娠後摂取率は初産58.7%、経産39.1%、認知の上での妊娠前摂取率も初産29.4%、経産16.3%、妊娠後摂取率が初産61.5%、経産42.2%と初産の方がむしろ高かった。【結論】妊婦の社会的背景や初産産により葉酸摂取勧告の認知度は異なり、また妊娠計画時期から妊娠初期にかけてのサプリメント補充は特に経産婦では充分普及していない現状が示された。

P1-11-14 当院過去4年間における高齢初産の検討

加古川市民病院

酒井理恵, 山田 愛, 林 奈央, 上田真子, 太田岳人, 房 正規

【目的】1980年以降総出生数が減少し続けている中、高齢出産はその実数および割合ともに増加傾向にある。女性の晩婚化による影響のほか、生殖医療技術の普及も高齢出産が増加する一因となっている。一般に高齢出産では、流産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、糖尿病、子宮筋腫合併、妊娠高血圧症候群等のリスクが高いとされている。年間約800の分娩を取り扱う当院においても35歳以上の初産婦は少なくはない。そこで我々は、高齢化が影響すると思われる因子について検討し、高齢初産の管理の指標について考察した。【方法】2006年1月1日～2009年12月31日に当院で分娩した25歳以上の単胎妊娠の初産婦1236例を対象とし、35歳未満群951例と高齢群285例の2群に分類した。各群における、母体合併症、妊娠合併症、分娩方式、出生児の状態について、カイ2乗検定を用いて検討した。【成績】高齢となるにつれ、不妊治療(体外受精)率、母体合併症(主に高血圧、子宮筋腫)の合併率が上昇する傾向がみられた。また入院管理を要する妊娠合併症が生じやすく、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病、前置胎盤のリスクが高くなる傾向もみられた。陣痛促進剤使用率、吸引分娩実施率、帝王切開率も高齢ほど高い傾向が見られた。尚、出生児の状態については、出生体重、Apgarスコア、臍帯動脈pHいずれにおいても差を認めなかった。【結論】高齢妊娠においては様々な合併症や産科異常の発症が高率にみられ、個々の症例に応じた対応が必要とされる。高齢妊娠は今後も増加し続けることが予測されるが、ハイリスク妊娠であるとの認識の元、計画的に妊娠・分娩管理を行うことが重要であると考えられた。

P1-11-15 当科における過去2年間の40歳以上の高齢初産に関する検討

東京警察病院

森住佑子, 福田友彦, 武家尾舞子, 浜井葉子, 今西由紀夫

【目的】現代は晩婚化によって高齢初産が増えており、年齢のみを適応に選択的帝王切開が行なわれる傾向にある。そこで当科における40歳以上の高齢初産の周産期予後を検討した。【方法】2009年1月から2010年9月までの40歳以上の初産14例とVBAC2例[A群]、対照として同時期に分娩した20歳代の初産14例とVBAC2例[B群]につき、(1)分娩様式(2)分娩週数(3)分娩時間(4)出産体重(5)出血量(6)産科異常(7)産科処置(8)新生児予後について比較検討を行った。【成績】(1)[A群]選択的帝王切開1例(適応:子宮筋腫核出術後)、経陰分娩15例(鉗子分娩2例、双胎分娩1例、VBAC成功2例を含む)[B群]選択的帝王切開1例(適応:骨盤位)、経陰分娩15例(鉗子分娩1例、VBAC成功2例を含む)(2)[A群]平均38週[B群]平均38週(3)[A群]平均589.6分[B群]平均568.1分(4)[A群]平均2932g[B群]平均2809g(5)[A群]平均505.6ml[B群]平均352.8ml(6)[A群]前期破水2例、早期破水4例、原発性微弱陣痛3例、続発性微弱陣痛1例、II期遷延3例、回旋異常1例[B群]前期破水5例、早期破水2例、原発性微弱陣痛1例、続発性微弱陣痛1例、II期遷延1例(7)[A群]促進剤使用6例、メトロイリゼ3例[B群]促進剤使用6例、メトロイリゼ3例(8)[A群]新生児仮死I度1例[B群]特記事項なし。【結論】40歳以上の高齢初産に対し経陰分娩を主体とした取り扱いを行った結果、周産期予後は良好であり、20歳代群との差は認められなかった。